


2 野 菜

項 目	作 業 内 容																																															
(1)果菜類の定植	<p>5月は、中山間地を中心に露地（雨よけ）果菜類の定植時期となる。平成23年4月22日高松地方气象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温及び降水量は平年並の確率が40%となっているが、この時期の天気は、数日の周期で変わることが多いので、苗の生育や気象情報に留意し、早めの本圃準備を行い、適期に定植できるようにする。また、定植にあたっては晩霜に注意する。</p> <p>作業のポイント</p> <p>(1)果菜類の定植 (3)ナスのバンカー栽培</p> <p>(2)イチゴの栽培管理</p>																																															
	<p>表1 野菜の種類と好適pH</p> <table border="1" data-bbox="973 728 1428 974"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>好適pH</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キュウリ</td> <td>5.6~7.0</td> </tr> <tr> <td>ナス</td> <td>5.5~7.0</td> </tr> <tr> <td>トマト</td> <td>6.2~7.0</td> </tr> <tr> <td>ピーマン</td> <td>5.5~6.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>ア 圃場準備</p> <p>作付けする圃場は、耕土が深く、保水性、排水性の良い場所を選び、あらかじめ完熟堆肥等を施用して深く耕しておく。また表1を参考に、土壤改良資材を用いて、pH（酸性、アルカリ性）を適正範囲に整えておく。各作目のうね幅及び株間、基肥の施用量は、表2を目安とする。マルチは、定植前までに条件のよい日を選んで張っておく。</p> <p>表2 果菜類の種類と栽植密度、基肥の目安</p> <table border="1" data-bbox="446 1164 1372 1467"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種 類</th> <th rowspan="2">畝 幅 (m)</th> <th rowspan="2">株 間 (cm)</th> <th rowspan="2">条</th> <th colspan="3">基肥 (kg/10a) *</th> </tr> <tr> <th>N</th> <th>P₂O₅</th> <th>K₂O</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>キュウリ</td> <td>1.5</td> <td>70~80</td> <td>1</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>ナス</td> <td>2.0</td> <td>60~70</td> <td>1</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>トマト(雨よけ)</td> <td>1.8</td> <td>50~60</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>ピーマン</td> <td>1.4</td> <td>50~60</td> <td>1</td> <td>18</td> <td>15</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 施肥量は愛媛県施肥基準による（成分量）</p> <p>イ 定 植</p> <p>天気が良く暖かい日を選んで定植する。苗は、キュウリは本葉3枚程度、ナス、トマト、ピーマンは1番花(房)の開花始めを目安とし、適期に定植する。植え付けは根鉢を崩さないよう丁寧に行い、深植にならないようにする。定植後はすみやかに仮支柱を立て、十分灌水して活着を促す。</p> <div data-bbox="938 1601 1428 1960" data-label="Image"> </div> <p>写真 ピーマンの定植</p>	種 類	好適pH	キュウリ	5.6~7.0	ナス	5.5~7.0	トマト	6.2~7.0	ピーマン	5.5~6.0	種 類	畝 幅 (m)	株 間 (cm)	条	基肥 (kg/10a) *			N	P ₂ O ₅	K ₂ O	キュウリ	1.5	70~80	1	20	30	18	ナス	2.0	60~70	1	20	20	18	トマト(雨よけ)	1.8	50~60	2	15	20	15	ピーマン	1.4	50~60	1	18	15
種 類	好適pH																																															
キュウリ	5.6~7.0																																															
ナス	5.5~7.0																																															
トマト	6.2~7.0																																															
ピーマン	5.5~6.0																																															
種 類	畝 幅 (m)	株 間 (cm)	条	基肥 (kg/10a) *																																												
				N	P ₂ O ₅	K ₂ O																																										
キュウリ	1.5	70~80	1	20	30	18																																										
ナス	2.0	60~70	1	20	20	18																																										
トマト(雨よけ)	1.8	50~60	2	15	20	15																																										
ピーマン	1.4	50~60	1	18	15	14																																										

項 目	作 業 内 容
<p>(2)イチゴの栽培管理</p>	<p>ア 高設栽培の給液管理 イチゴの高設栽培では、おおむね6月末頃まで収穫が行われるが、気温や日射量の上昇に伴って吸水量が増加するため、定期的に排液量を確認し、培地が乾燥しないよう給液回数や時間を調整する。培地量の少ない高設栽培システムでは特に注意する。</p> <p>イ 品質低下の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温期には果実品質が低下しやすいので、穫り遅れのないよう注意し、過熟果、黒ずみ果、ズルケ果を出さないようにする。 ・果実温度の低い早朝に収穫するとともに、予冷を徹底し、パック詰めを行う。 ・摘果の徹底により、終盤まで大玉生産に努める。 ・アザミウマ類の被害果を防止するため、花をよく観察して薬剤防除を行うとともに、ハウス内外の除草に努める。 <p>ウ 親株床の管理 良く揃った子苗を多く発生させるには、4月下旬までに発生したランナーを除去し、5月以降に発生するランナーから子苗を採苗する。土壌が乾燥したり親株が肥料切れすると、ランナーの発生が悪くなるので、適宜、灌水や追肥を行う。親株の古葉や枯葉、病葉、花房等は随時除去するとともに、炭疽病、うどんこ病、アブラムシ等の防除に努める。</p> <p>エ 採苗(鉢受け)</p> <p>太く充実したランナーを選んで、本葉1~2枚の子苗をポットに受け、クリップ等で固定する。鉢受け後は、培土が乾燥していると活着が遅れるので、灌水チューブ等により随時灌水を行う。ランナーの切り離しは、鉢受けの10日~2週間後、ポットの底穴に根が達した頃を目安とする。</p> <p>(3)ナスのバンカー栽培 (ソルゴー障壁栽培)</p> <p>ナスの圃場の周りにソルゴーを植え付け、ナスの害虫「ミナミキイロアザミウマ」や「アブラムシ類」の天敵を増殖させ、害虫の密度を低下させたり、風よけの効果もあるバンカー栽培が最近注目されている。</p>



写真 イチゴ高設栽培(収穫後期)

項 目	作 業 内 容
	<p data-bbox="411 244 911 768"> ソルゴの播種は、晩霜のなくなる5月上旬頃に、ナスの圃場の周囲（ナスから1～2m離れたところ）に1～2条の条播とする。必要種子量は、ナス圃場10aに対し200～400g程度である。基肥は無くてもよいが、生育が悪い場合は株元に化成肥料を適宜施用する。5月上旬に播種すると、8月には約2m、9月には約3mの高さになる。9月下旬頃に出穂し、花粉でナスの果実を汚すため、速やかに穂を刈り取る。 </p>  <p data-bbox="967 734 1358 768"> 写真 ナスのバンカー栽培 </p> <p data-bbox="411 786 1417 869"> また、強風時には倒伏する恐れがあるため、あらかじめ杭を打ち、マイカー線等で補強するとよい。 </p>